# 学習教材「ラファエック」を通じた自立支援事業 2021年度活動のご報告(2020年7月~2021年6月)



ラファエック(現地語でワニという意味)

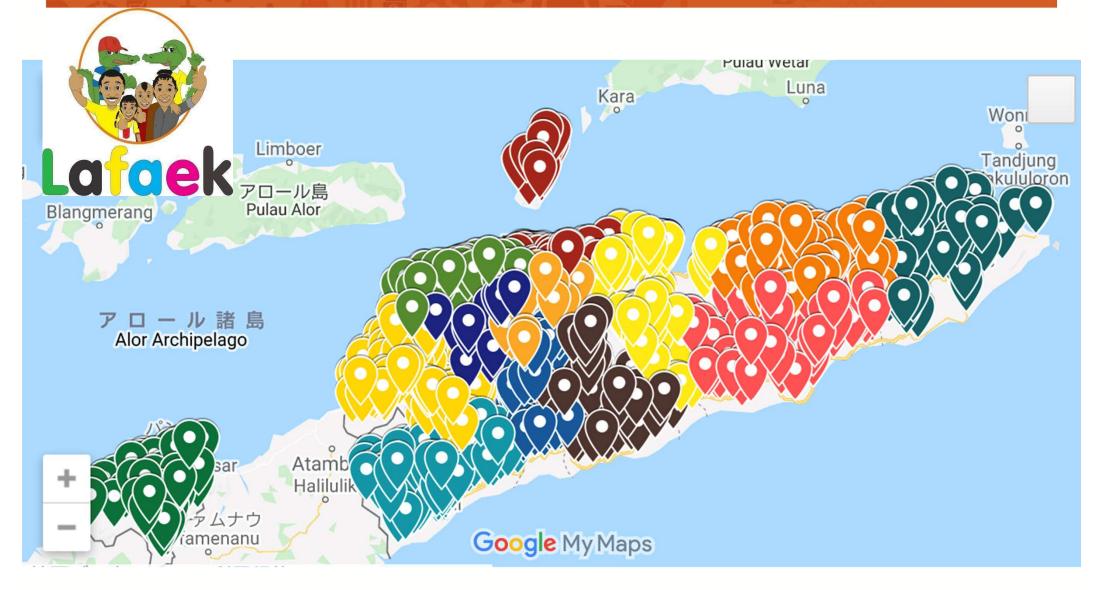
27 Janeiru 2021 Aniversario Lafaek ba dala



2021年9月 公益財団法人ケア・インターナショナル ジャパン

# 2021年度も、東ティモール全13県で学習雑誌を配布しました





## 2021年度 総括

#### 1. 学習雑誌の制作と配布

テトゥン語で書かれた4種の「ラファエック」を発行しました。

種類	雑誌名	対象者	配布実績数	(年3回合計)
1	コミュニティ・ラファエック	成人		290,619世帯
2	ラファエック・キーク	未就学児~小学校低学年		331,491人
3	ラファエック・プリマ	小学校3~6年生		340,607人
4	ラファエック・バ・マノリン	幼稚園・小学校教師		36,622人

### 2. ラファエックを教材とした対話ワークショップの実施

「コミュニティ・ラファエック」配布後には、対象の17コミュニティのうち、14のコミュニティで対話ワークショップを開催。733人(女性369人、男性364人)が参加し、理解を深めました。

### 3. オンラインを通じたラファエック・コンテンツの提供

インターネット環境の整った首都ディリ等の都市部の青年層(13歳〜34歳)を対象に、オンラインによる情報サービスの強化に取り組みました。特に、ラファエック公式Facebookとホームページの運用を強化しました。

### 4. スポンサーシップによる公告収入など

上記活動の継続性向上を目指し、スポンサーの獲得に注力しました。EU-CESO International, USDA, Mercy Corpsなど7団体との共同誌面制作が実現し、383,148ドルの収益を得ました。



#### 1. 新型コロナウイルス感染症の感染拡大による影響

新型コロナウイルスの感染が首都ディリを中心に急速に拡大にするに伴い、政府による県境を越えた移動の制限と集会人数の制限が課せられ、本事業の進捗にも影響を与えました。

とりわけ、第三四半期から第四四半期(2021年1月~6月)にかけて、プロジェクトスタッフは原則、在宅勤務となり、一時的に配布を休止することを余儀なくされました。これにより、対話ワークショップについても、3つのコミュニティでの実施が見送られました。2022年度も、様々な制約下での活動が想定されることから、柔軟なスケジュール調整が必須となります。

#### (補足)

農村地域ではインターネットの環境が十分に整備されていないため、ラファエックFacebookなどオンラインでの情報配信については、都市部の青年層に利用者が限定されることが課題として残されています。

#### 2. 雨季中のアクセスの問題

11月~3月にかけての雨季に加えて、2021年4月には50年に一度と言われるほど甚大な豪雨災害が発生。

土砂崩れや橋の崩落、河川の氾濫等で道路が寸断され、 対象の学校に到達できない事態が発生し、ラファエック 配布が遅れる要因となりました。



# 【成人への生活情報提供】 コミュニティ・ラファエック







農村地域の世帯を対象に、農業方法の改善、健康維持や病気予防、小口融資、 気候への適応、栄養に関する情報など、日々の生活に役立つ内容で構成された 「コミュニティ・ラファエック」を、年3回、計290,619部配布しました。

同誌には、識字力が十分ではない成人でも理解ができるように、視覚に訴える工夫が多く施されています。また、テトゥン語とポルトガル語の読み書きや計算能力を身に着けるためのコンテンツなども掲載されています。

### 「ラファエック」の内容への理解を深め、知識の定着を図る! 住民参加型の対話ワークショップを実施

例えば、以下のようなテーマでワークショップを行い、計733人が参加しました。

- 新型コロナウイルスの症状と衛生習慣に対する意識向上 (マスク着用、ソーシャルディスタンス維持、石鹸を使った手洗いなど)
- ・ コロナ下での新しい生活様式や学習環境の中での、子どもたちの心のケア
- ・ ジェンダーに基づく暴力の防止(暴力につながるストレス要因など)や 相談機関の紹介
- 子どもの家庭学習を支援するための「ラファエック」活用法
- ・ 食糧不足を改善し、家計も助ける(収入増につながる)農業や食品加工に 関するノウハウ

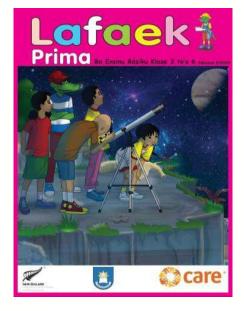
# 【子どもたちの学校教育・家庭学習支援】 ラファエック・キーク&プリマ + 教師用バ・マノリン





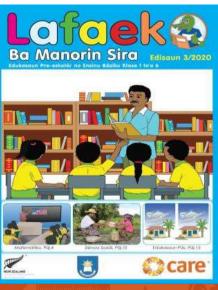
未就学児~小学2年生用 「ラファエック・キーク」

簡単な読み書き計算ドリル や物語、工作などが中心。



幼稚園・小学校教師用 「ラファエック・プリマ」

キークの内容の高度版。 加えて、自然科学や社会科学、 芸術、数学、社会貢献なども。



小学3~6年生用 「ラファエック・ バ・マノリン」

国家カリキュラムに沿った 教育内容や授業計画、 教授法など。

## 学校の教室や図書館、家庭などで掲示できる 「ポスター」も配布





# オンラインでの教育コンテンツ・情報提供



インターネット環境の整った首都ディリ等の都市部の青年層(13歳~34歳)を主な対象に、 デジタルでの教育コンテンツの提供、そして生活に必要な情報の配信を行いました。

#### 1. Facebook

- ・今年度、271回の投稿を実施。うち26回がスポンサーとの連携による投稿でした。
- ・Facebookフォロワーは141,534人(2021年6月時点/昨年度比1万人増)を記録。 東ティモール国内第4位のフォロワー数を維持しました。
- ・4,174,200人にリーチし、436,314人のエンゲージ(いいね!、コメント、シェア)を得ました。
- ・保健省と世界保健機関(WHO)の情報をもとに、<mark>新型コロナウイルス関連の投稿を36回</mark>実施しました。 計983,388 人にリーチし、123,573 人のエンゲージを獲得。感染防止情報の共有に貢献しました。

### 2. <u>ウェブサイト</u>

- ・2021年6月時点で、毎月平均127人(UU)に閲覧されています。
- ・そのうち89%が、東ティモール国内のユーザーでした。

#### 3. YouTube

・CARE東ティモール職員が、Youtube戦略、コンテンツ開発およびスポンサーシップ獲得に向けて 研修を受けました。



# 追加的活動

## ~50年に1度の豪雨災害における「ラファエック」活用~



#### 熱帯低気圧「セロジャ」による被災状況

(2021年5月末現在)

■発生時期:2021年4月3日未明

■被災地域:インドネシア東部から東ティモール

■死者数 : 41人

■被災者数:33,177世帯(およそ189,108人)

■ディリにおける家屋損壊:全壊550、一部損壊2,800

#### CAREによる緊急支援活動

発災後直ちに、被災者への緊急支援物資および衛生用品などの提供を開始しました。

さらに、首都ディリに設置された避難所に身を寄せる子どもたちには、過去に発行したラファエック(キーク11万冊、プリマ135,000冊)を配布しました。

また、過密が懸念される避難所において、読み聞かせや 読書会なども企画して、新型コロナウイルスへの感染予防 を啓発するとともに、子どもたちの心のサポートも行いま した。





# インパクト(中間事業評価の結果)



#### Input リソース投入

✓補助金・寄付金および 自己資金として、 年間1.3億円程度

√現地専従職員数約20名 (現地事務所の職員総数は 約200人)

#### Output 今年度活動成果

**√**ラファエック配布数 未就学児~小学2年生 延べ331,491人 (1.602校) 小学生3~6年生 延べ340,607人 (1.173校) 教師 延べ36,622人 (1,602校) 成人 延べ290.619世帯

✓対話ワークショップ数 14回開催、733名参加

#### Outcome 期待される行動変化

- √家庭学習の増加
- ✓学校での副教材としての ラファエック活用頻度の向上
- ✓識字率や学校成績の向上
- √進学率の向上
- ✓中退率の低下
- ✓農作物の収穫高向上
- ✓世帯収入の向上
- ✓乳幼児の栄養状況改善
- ✓乳幼児死亡率の低下
- √地域における問題解決力の向上 等々

#### Impact 長期的 • 間接的効果 社会への波及

✓学校ならびに家庭での 教育の質と重要性理解の向上 ✓ 貧困緩和















## 中間評価(246校の生徒1,110人へのアンケート調査およびインタビュー)

- ・子ども向けラファエック(2誌)に対する全体的な満足度は96%でした。
- ・未就学児~小学2年生向けのラファエックを受け取った子どもたちのうち92%、 また小学生3~6年生向けラファエックを受け取った子どもたちのうち98%が、 「自宅に雑誌を持ち帰り、家庭学習でも頻繁に利用している」と回答しました。
- ・未就学児~小学2年生向けラファエックを受け取った96%が、 「ラファエックのおかげで学校がより楽しくなった」と回答しました。
- また、同誌を受け取った女子生徒の53%が、 「ラファエックが、指導的役割や意思決定を行う役割を担う自信を与えてくれた」と回答しました。

# 【補足資料】事業概要



## 東ティモールについて

#### 2002年に独立

・人口:126.1万人

・言語:公用語・・・ポルトガル語とテトゥン語

実用語・・・インドネシア語と英語

・識字率:成人50~60%

(女性は3人に1人しか字を読むことが出来ません)

・絶対的貧困率:国民の3分の1が一日1.9ドル以下の暮らし



・事業名: 学習教材「ラファエック」を通じた自立支援事業

・事業規模:3,800,000USドル/3年間

(日本からの支援、ニュージーランド政府資金ほか、CARE東ティモールによる自主事業の収益などを含む)

·事業期間:2019年7月~2022年6月(3年間) ※2001年からの継続事業

・目標: 子どもと、読み書きの知識が充分でない大人の学習成果の向上に寄与し、子どもの発達促進と 教育状況の改善および世帯全体の生活生計能力の向上を図り、自立的な地域社会を目指す。

・対象地域:東ティモール 全13県

・対象者: 特に農村地域で暮らす成人と、未就学児~小学6年生の子どもたち、および幼稚園・小学校教師など

・活動内容:1)テトゥン語で書かれた4種類の学習雑誌「ラファエック」の制作と配布(年3回)

2) 「ラファエック」を教材とした対話ワークショップや研修の実施

3) ホームページ、Facebook等ITを通じた教育コンテンツの発信

4) スポンサーシップによる事業資金の獲得

# 【補足資料】ストーリー





ヴェンセスさんは、歩いて30分から40分の エメラ小学校に通う5年生。彼は12歳で、年 に3回、「ラファエック・プリマ」を受け取 っています。

両親と弟妹と一緒に暮らしています。 いつも弟たちの良いお手本となって、毎日、 両親がが泉からきれいな水を汲むのを手伝っ ています。 ヴェンセスさんは、学校から帰ったら、弟妹と一緒に 欠かすことなく毎日、ラファエックを読みます。

最近では、短編小説 「fahi oan rua 」の中のF、G、H、J、Kで始まる単語、音節を学んだり、色鉛筆で陰影をつけながら分数を学んだりしています。

「ぼくには簡単に感じられました。数学や文章の読解力を高めてくれるラファエックで勉強ができることは、本当に嬉しいです」と、目を輝かせました。

中でも、太陽系に関する内容についてとても関心が強いヴェンセスさんは、「木星は太陽系最大の惑星で、 土星には環があり、海王星は地球から最も遠い惑星で す」と、自信たっぷりに教えてくれました。

ヴェンセスさんの 将来の夢は、 警察官になることです。

